



大図研京都支部

「大図研について語る大忘年会！」開催のご案内！！

早いもので、今年もあとわずかとなりました。今年も大図研京都支部では恒例の年忘れ大忘年会を盛大に開催いたします。普段はセミナーなどに参加されていない方も、ぜひ、お気軽にご参加ください。飲んで食って笑って、思いっきり楽しい年忘れの会としましょう。

なお今回は忘年会内のわずかなお時間を頂戴して大図研に対する印象や感想を聞かせてもらう機会を設けたいと思います。大図研の「ここが良い」、「ここがちょっとねえ」といった皆様の生の声を広く集め、今後の活動に生かしていきたいというのが趣旨です。日頃なかなか言えない、大図研の活動に対して思うこと、疑問点について、率直な意見をお伺いします。ご協力をお願いします。

(なお、忘年会に参加できない方からも、大図研に対する印象や感想をいただきたいと思えます。支部委員会 (kyoto@daitoken.com) までぜひお寄せください。)

■日 時:2011年12月27日(火) 19:00 開始

■場 所:綴 (つづり)

<http://r.tabelog.com/kyoto/A2602/A260201/26003488/>
(四条烏丸近辺です)

■参加費:大図研会員/ 非会員ともに 4,000 円程度
(参加費は当日会場でいただきます)

■申込方法:当日の飛び入り参加も大歓迎です。ただし事前に参加人数を把握するため、お近くの支部委員または支部委員メーリングリスト (kyoto@daitoken.com)まで、お知らせください。

皆様のご参加をお待ちしております！

[目 次]

大図研京都支部「大図研について語る大忘年会！」開催のご案内	…	1
支部委員 挨拶	…	2
筑波大学主催「平成 23 年度大学図書館職員長期研修」参加報告	大綱浩一	… 6
第 42 回大学図書館問題研究会全国大会分科会 (図書館経営) 参加報告	安東正玄	… 7

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール : kyoto@daitoken.com (大学図書館問題研究会京都支部)

URL : <http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

支部委員 挨拶

大図研の年度は7月で替わります。2011年度の開始に伴いまして、支部委員を務めさせていただきます15名よりご挨拶させていただきます。今年度は3名の新しいメンバーを迎え、より一層京都支部を盛り上げていきます。これからも大図研京都支部をどうぞよろしくお願いいたします。

● 赤澤 久弥 (副支部長／支部報印刷・発送／第43回全国大会京都支部実行委員)

2012年夏には、京都で大図研全国大会が開かれます。折からのこの機会、たくさんの支部会員の皆さまにご参加いただけたらうれしく思います。さて、今年度は、副支部長として、主に全国大会の準備を担当します。思えば12年前の京都大会の時、先輩に誘われて、大図研のことをよく知らないまま、分科会で発表をしたのが大図研への関わり初めでした。今なら、大図研の活動の醍醐味は、そうして実際に参加することにあると、確信を持って言えます。ですので、来年の京都大会も皆さまにとって有意義な大会となるよう、支部委員一同、準備を進めて行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

あかざわ ひさや (京都大学附属図書館)

● 安東 正玄 (研究企画／Web サイト・ML)

大図研に入ってからまだ2年目です。

最近、「リエゾンライブラリアン」という言葉に私大図書館にいる専任職員の可能性を感じています。

私学では図書館でも専任職員は他部署への異動がありますし、その上業務委託化が進んでいますので、図書館で働く専任職員＝ライブラリアンという感覚がものすごく薄くなっています。そういう状況もあり、大図研に私学図書館の専任職員の加盟が少ないとも感じています。

しかし、この「リエゾンライブラリアン」は大学職員(専任)が当然身に着けないといけない「教員とのコミュニケーション能力」が問われると考えていますし、そうした場合、「私学だから」とか言ってられない。逆に、私学だからこそ積極的にリエゾンライブラリアンとして専任職員が動き出すことに未来を感じています。

興味関心は人一倍だが、身動き取れない今日この頃です。

あんどう せいげん (立命館大学 図書館サービス課)

● 池田 貴儀 (支部報編集)

日本原子力研究開発機構の池田です。今年度も引き続き京都支部委員を務めさせていただきます。

支部委員も7年目となりました。今年度も支部委員として京都支部を陰で支えていければと考えています。役割としましては「支部報編集」を担当いたします。会員の皆様にとって有益な情報の発信、また有意義な交流の場を提供できればと考えています。

京都支部以外の大図研の活動としては、常任委員、会報「大学の図書館」の編集委員も引き続き務めます。

よろしくお願いいたします。

いけだ きよし (日本原子力研究開発機構研究技術情報部)

● 金森 悠一 (Web サイト・ML/メールマガジン)

支部委員は今年で2年目となります。入会と支部委員活動を開始したことが、つい最近の出来事のように思えて仕方ありません。どこかで、1歳の1年に比べると25歳の1年は、生きてきた人生に対する1年の割合が違うので、早く過ぎるように感じるというのを読んだ気がしますが、まさにその通りなのでしょう...しかもその理屈で行くとこれからもっと早くなっていくなんて、考えるだけでも恐ろしいですね。

それはともかく、今年はWeb管理・メールマガジンと広報部分を担当します。特に今年は京都で行われる全国大会の準備の年でもあり、例年以上に活発な広報を行っていくことになるかと思えます。これをお読みの皆さんも京都支部の活動に注目すると同時に、来年の全国大会における盛り上げに一役買ってくださいようよろしくお願いいたします。

かなもり ゆういち (京都教育大学附属図書館)

● 米田 寿宏 (メールマガジン/Web サイト・ML)

今年から支部委員を務めております。京都大学工学研究科の米田寿宏と申します。支部のホームページとメーリングリストを担当します。普段は「一人図書室」で図書室業務全般を行っています。

大図研の活動を通じて、いろいろな人が出会い、互いに切磋琢磨してもらえれば嬉しいです。支部委員として、会員同士が気軽に意見交換したり交流できるようにお手伝いできればと思います。今年1年間どうぞよろしくお願いいたします。

こめだ かずひろ (京都大学工学研究科桂電気系図書室)

● 坂本 拓 (副支部長/研究企画)

私は5年前の2006年から支部委員を務めさせていただいているのですが、気がつけば、その頃から残っているメンバーは、私を含め4人だけになってしまいました。支部委員の他の皆さまは、この何年かの間に新しく加わっていただいた方々です。メンバーが定期的に入れ替わりながらも、組織としての勢いが決して衰えることなく、新たなアクションがどんどん起こせる。良いことだなあ、と思います。阪神に見習って欲しいです。

私は、大図研とは、いわば競技場のようなものだと思います。そこで、自分がプレイヤーになって活動するのも良いし、見るだけの観客のままでいることもできます。でも折角なので、みなさまも機会を捕まえて、プレイヤーになって活動しませんか?今年夏は夏の全国大会を京都で開催いたしますので、みなさまにも発表や、他支部の方との交流など、さまざまな活動の機会があることと思います。また、ワンディセミナーと一緒に作り上げてくださる方も引き続き募集させていただく予定です。今年私は副支部長の一翼を担わせていただきますが、是非、より多くの方々と、より活発な支部運営をしたいと思っております。また、一年間どうぞ、よろしくお願いいたします。

さかもと たく (京都大学工学研究科・工学部桂地球系図書室)

● 辰野 直子 (メールマガジン)

引き続き支部委員を務めさせていただきます。

今年度はメールマガジンを担当します。メールマガジンは、支部委員会の議事録のほか支部からのお知らせ、そして毎月初めに図書館関係のイベント案内を、メーリングリスト(ML ゆりかもめ)を通じて会員の皆様に配信しています。内容に関するご意見等お寄せ頂ければ幸いです。またこのメーリングリストは、会員相互の情報交換・

交流の場でもあります。まだ登録されていない方は、この機会にぜひご登録ください。支部 Web サイトの「ML ゆりかもめ」参加申込フォームから可能です。kyoto@daitoken.com 宛てにご連絡頂いても結構です。

今年度は支部委員が 15 名になり、これまで以上にパワーアップしています。委員それぞれの個性・能力を活かして、京都では 12 年ぶりの開催となる全国大会をはじめ支部の活動を盛り上げていければと思っています。会員の皆様には、活動へのより一層のご協力もお願いしたいと思います。

1 年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

たつの なおこ (京都大学農学研究科生物資源経済学専攻司書室)

● 寺升 夕希 (Web サイト・ML/組織・財務)

今年度から支部委員を務めることになりました、滋賀医科大学附属図書館の寺升です。Web サイト運営と組織・財政を担当いたします。

大図研京都支部のワンディセミナーには今まで何度か参加してきましたが、運営する側に回るのは初めてです。右も左もわからないまま皆さんからの引継ぎを受けて、あたふたしています。ですが、何事も勉強と思ひ頑張っていきたいと思っています。

1 年間よろしくお願ひいたします。

てらます ゆうき (滋賀医科大学附属図書館)

● 長坂 和茂 (支部報印刷・発送/第 43 回全国大会京都支部実行委員)

今年度も引き続き支部委員を勤めることになりました、長坂です。

映画の「レッドクリフ」を見た方はいらっしゃるでしょうか？三国志好きとして非常に面白い映画でした。とはいえ、映画ですので実際の歴史とは違う部分が多々あります。例えば、映画では赤壁の戦いは主に諸葛亮と周瑜の功績となっていました。あの戦いの勝利にもう一人忘れてはいけない人物がいます。それが、魯肅です。映画だと諸葛亮を案内してただけの人ですが、実は歴史書において、彼は「天下三分の計」同様の、天下を分割すると言う画期的な案を、諸葛亮よりも早く提示した戦略家なのです。

魯肅は孫権にこう言いました。漢帝国の復興と曹操の迅速な排除は不可能である。長江下流域を足がかりとして曹操を防ぎ、長江中流域を隙を見て奪い、長江南岸の守りを磐石にする。その上で孫権を皇帝に即位させる、と。ポイントは漢の復興をあきらめ、孫権を皇帝にするのを目標にするという点です。これは三国鼎立という結論を知った上で見れば普通ですが、当時は諸葛亮さえそこまでは言及していません。

一方魯肅は実戦はさほど得意ではなく、その能力は周瑜にこそありました。周瑜は赤壁直前、自軍の戦術的優位を孫権に語り、開戦を決断させます。かくして、魯肅の立てた戦略を周瑜が戦術面で実行することで、難敵曹操を破りました。

レッドクリフの孫権軍の勝利は、魯肅の戦略と周瑜の戦術というそれぞれの長所を生かしてこそ、だったのです。

魯肅の戦略はこの後も孫権軍を支える国家構想として維持され、周瑜魯肅の死後は呂蒙に引き継がれます。呂蒙については去年の支部委員挨拶で書きましたので省略します。京都支部のサイトに過去の支部報が掲載されていますから、そちらをどうぞご覧ください。

戦略眼と戦術眼。どちらを持った人物も組織には必要ですね、という話でした。

ながさか かずしげ (京都大学工学部・工学研究科桂化学系図書室)

● 西野 紀子 (支部報編集)

今年度も引き続き支部委員を務めさせていただくこととなりました。早いもので今

期は4期目となります。今年の3月までは某大学図書館の理工系図書館においてレファレンス業務と利用者教育を担当しておりましたが、現在は今までの経験で培ったスキルを活かすべく教育担当として勤務しております。

京都支部においては、今期も支部報の編集を担当させていただきます。近頃、会員のみなさまからの投稿が少ない状況です。ぜひ、みなさま原稿をご執筆ください。今期もどうぞよろしく願いいたします。

にし のりこ (非公開)

● 野間口 真裕 (組織・財務／支部報印刷・発送)

京都支部は新支部委員を多数お迎えし、さらに全国の常任委員を1名選出し、押しもおされぬ全国屈指の支部となりました。

ただ、私個人としてはなかなかお力になれず、本当にあつという間に支部委員として3年目を迎えた—という気持ちです。

組織財務の主担当という新たなお仕事もいただき、3年目の責任を痛感するとともに、今年度も『総会、研究交流会、支部報、メーリングリストによって会員相互の交流を深めていくとともに、新たな仲間を増やしていきたい』、そして楽しく前向きな議論ができれば」をモットーに頑張っていければと思います。どうぞ1年よろしく願いいたします。

のまぐち まさひろ (京都大学経済学部図書室)

● 原竹 留美 (支部報編集／組織・財務)

初めて支部委員を務めさせていただきます。これまで一会員として大学図書館に関する様々な情報を「受信」してきましたが、今年度は「発信」する立場という新たな視点から大学、図書館を取り巻く問題を皆さまと共有し、考えていければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

はらたけ るみ (滋賀医科大学附属図書館)

● 藤谷 篤 (研究企画／メールマガジン)

今年度より支部委員となりました。

普段は大学図書館の業務を受託している立場で、現場との調整役として右往左往している毎日です。いつかは、その方面からも取り組むことができれば...と考えていますが、まだまだわからないことだらけで、展開のスピードについて行くのに精一杯といった感じです。

今年度は「研究企画」と「メールマガジン (Twitter)」を担当させていただいておりますが、フォローしていただきながら、慣れていっているところですので、少しでも早く役立てるようがんばっていきたくと思います。また、先に示したとおり、つぶやき担当でもありますので、投稿情報ございましたら、ぜひお寄せください。

それでは、どうぞよろしく願い致します。

ふじたに あつし (立命館大学図書館 (委託職員))

● 藤野 まゆみ (研究企画／組織・財務)

今年度、支部委員を務めさせていただきます藤野です。図書館職歴は田舎の小さな公共図書館 (というか、公民館図書室?) からのスタートだったため、システムや人が共にネットワークとして全国的に繋がっている大学の図書館ってすごいなあと、思

っていた数年後、なぜかこの原稿を書いている現在の自分自身に驚いています…。今回を貴重な機会と捉え、会員の皆さまの活動に少しでもお役に立てるよう、精一杯務めさせていただくと共に、多くの方にお会い出来るのを楽しみにしています！

1年間、どうぞよろしく願いいたします。

ふじの まゆみ (立命館大学 図書館サービス課)

● 山下 ユミ (支部長/第43回全国大会京都支部実行委員)

今年度より、支部長を務めさせていただくこととなりました。

大図研に入会させていただいてから、多くの方と出会い、楽しく過ごしてきましたが、これまでの伝統を大切にしながら、新しいことにもチャレンジしていけたらと考えております。

今年度は、2回程度予定しているセミナー開催と、支部報の発行を通じて会員の皆さんのスキルアップや交流の場を提供したいと思います。さらに来年の夏には京都で全国大会を開催することになりましたので、さっそく準備に取り掛かっております。よろしく願い申し上げます。

やました ゆみ (京都府立医科大学附属図書館)

筑波大学主催「平成23年度大学図書館職員長期研修」参加報告

大綱 浩一

標記研修に参加しました一個人として、報告します。

1. 研修の概要

研修の概要は、次のとおりです。

目的：全国の国立大学図書館等の中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させることを目的とする。

期間：平成23年7月4日(月)～7月15日(金)

会場：筑波大学春日エリア情報メディアユニオン

参加者：36名

詳しくは Web ページ (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/>) をご覧ください。過去の講義記録や受講生の声なども掲載されています。平成23年度分もそのうち掲載されると思います。

2. 感想

2週間の長期に亘る研修に参加するには、職場の理解と協力が不可欠ですが、それに見合う価値のある研修だったと思います。受講生同士の交流も大変魅力的でした。

日々、業務に追われる身としては、大学や大学図書館を取り巻く社会の情勢や要請、大学における大学図書館の位置や役割、学術情報流通の現在、学習支援及び教育活動へ

の直接の関与、利用者を知ること、図書館員に求められる資質、マネジメントの必要性、公共サービス改革（市場化テスト）の経過、対話や協働の重要性など、知識や方法論を講義やグループワークによって集中的に習得できる機会は大変貴重でした。この研修は収穫ではなく種蒔きなのだと思います。研修後、レポートの提出を課されたのですが、それも大学図書館について、じっくり考える良い思索の時間になったと思います。

レポートでは、ラーニング・コモンズについて考えてみました。別紙レポートのとおりです(*1)。よかったら目を通してみてください。すっかり埋没させてしまっていた大図研京都ワンディセミナー「効果的な情報リテラシー教育を目指して：教育活動における教員と図書館員の連携」2010年6月12日（土）、講師：長澤多代先生（三重大学高等教育創造開発センター）の資料を掘り起こす機会にもなりました。

例年、情報関連等企業の方が担当されるコマがあるのですが、今年度はアップル・ジャパン(株)の方が講師でした。情報産業では Google の1人勝ちは揺ぎ無いように感じていましたが、アップルは iPad 等の端末展開によって対抗しようと考えているようでした。確かに、どれほどクラウドが広がろうとインタフェースである端末が無ければ意味が無いわけで、是非、そうした結節点を射抜く目を持ちたいと思いました。

事前に節電対応の影響が伝えられていましたが、会場はとても快適でした。その分きっと別の場所で節電されていたのではないかと思います。筑波大学の皆様、ありがとうございました。

なお、研修中、次の文書が何度も参照されていました。まだ目を通されていない方は、一度、ご覧いただければと思います。

- 「大学図書館の整備について（審議のまとめ）：」平成22年12月
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm
- 「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」平成20年3月
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm

おおつな こういち（国立民族学博物館）

(*1)別紙レポートは次号掲載の予定です（支部報編集担当）。

第42回全国大会分科会(図書館経営) 参加報告

安東 正玄

8月27日～29日にかけて、東京（北区王子 北とぴあ）で全国大会がありましたが、スケジュールの関係で、1日だけの参加となりました。そんな状況の中で、特に報告がいつも難しいと言われている図書館経営の分科会について、感想を中心に報告します。

この分科会では、図書館業務の外注化問題について、建前ではない、リアルな議論がされました。ただ、「オフレコで。」という発言が多く詳細ご紹介できないのが残念です。（このような理由で、報告が難しかったりします）

そこで、分科会での議論を受けつつ、私を感じた点について述べたいと思います。

多くの私大においては、業務の効率化・高度化と人件費削減などの理由で、積極的に業務の外注化が進められてきました。一方、国立法人においても「図書館運営業務に関

する市場化テスト」で外部委託の動きもありましたが、関係者の問題指摘もありひとまずおさまっている感があります。しかし、特に規模の小さい私大では教務と図書館兼任の専任職員しかなく、図書館用語も通じないという大学まで出てきており、財政重視で外部委託化が進んでいる実態があります。

では、外部委託を進めることで、業務の効率化・高度化また財政的に大いなる効果は果たしてあったのでしょうか。

外部委託する場合、働いている人の賃金に管理経費等を加えて委託企業に支払うことになります。当然、その支払いが少ないと、「賃金の安い労働者」を集めるしかなく、結果的に人が固定せずすぐに辞めてしまい、知識が蓄積されない事が今回の分科会でも報告されています。そうした中「教育の質」が問われている状況において正しい選択かどうか、考える必要があります。またそれら低賃金の労働者は大卒であり、それが本当に大学のやるべきことかと言う話も紹介されました。

とは言え、私学においては「財政問題」がある程度前提にならざるを得ないところがあり、外部委託との調和を図らざるを得ない状況にあります。そうした場合、図書館は何をすることで、そのための体制はどうすべきかを大学として明らかにしておくことが必要になります。幸いなことに、「教育の質」議論もそうですが、ラーニング・コモンズなど「学びの場としての図書館」「学び支援をする機関としての図書館」など議論が高まっており、その流を積極的に加わっていくことが必要だと考えています。

図書館丸ごとまたはレファレンス業務を外部委託した大学は、「大学の生き残り」議論において非常に厳しいと感じていますので、そのような大学ほどそれらの議論に加われるかどうか大学の存続にも関わると考えています。外部委託は職員にノウハウは残らないとの指摘もあり委託した期間が長いほど後戻りができないとの声もあります。

「利用者サービス（利用者の要求）に耐えられるのであれば、専任職員なのか外部委託かは関係ない」との指摘も当然ありますが、利用者の要求に耐えられるスタッフをそろえるためには「委託費」は必然的に高くなりますし、その上ノウハウは学内に残らない（職員の成長の場が減る）ということを理解しておくことが大切です。これらを考えると、「外部委託＝安い」は必ずしも正しくないということをしっかり踏まえることが必要です。

私は、外部委託そのものを否定はしませんが、今回この分科会に参加して、学生・教員の声を聞きそれを支援・具現化する業務は外部委託してはならないと感じました。大学の社会的役割とその中での職員の役割とそのための成長の場の保障の議論をより深める時期に来ているといえるでしょう。

あんどう せいげん （立命館大学 図書館サービス課）
「大学の図書館」2011年12月号より、一部加筆の上転載

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2011年度（大図研会計年度2011.07-2012.06）に入っておりますので、2011年度の会費の納入をお願い致します。また、2010年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000（大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000）です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (kyoto@daitoken.com) まで。